

編集後記

ローマ法雑誌第4号をお届けします。

今号は、査読付き論文の掲載に至らず、彙報には史料邦訳2本、書評7本（うち1本は二論文が対象）、学界動向として国際学会参加記3本と、前号同様、日本ローマ法研究会の参加記及び大会プログラム・報告要旨集も掲載しました。報告要旨の中には、後日譚を追記したものもあり、研究大会を跨いで議論が活発化するの、望外の喜びです。他方、追悼記事2本は、学界の喪失と同時に、学統・学恩の継承を強く意識させます。

ローマ法のフォーラム形成に尽力された柴田光蔵先生に、創刊号をご覧頂けたのは、編集子にとってせめてもの慰めとなりました。

書評対象には、本誌掲載論文やローマ法関係論文に加え、史学の専門書、英文書籍も含まれます。今後も、編集委員会からの依頼を待たず、積極的なご寄稿をお待ちします。

日本ローマ法研究会第6回大会は、オンライン併用のハイブリッド（ハイフレックス）開催としました。遠方からの参加が容易となる反面、操作・電波の不具合もあり、対面参加者には休憩時間など「場外」での対話・議論が可能である点など、再認識しました。

投稿、査読、大会報告や司会・質疑への参画、大会に前後しての議論など、各位のご協力に感謝申し上げます。

史料はローマ法研究の基盤ですが、時に自由な発想や、他分野に向け窓を開き、手を伸ばすことも必要です。実定法学との接続を試みる大会報告もあり、同種の論考が掲載されることを期待します。

本誌の編集方針、大会の在り方など、各位からご意見を賜れば、鋭意、反映致します。よろしく、ご教示ください。（佐々木健）